

## 2 空港・港湾等の交通拠点と生産拠点を結ぶ広域幹線道路網の整備推進について

(国土交通省)

### 【内容】

- (1) 2020年度の開通見通しとなった名古屋環状2号線は、国際物流・交流拠点である名古屋港への重要なアクセス道路であり、西南部・南部区間の完成に伴って名古屋都市圏の環状道路としての機能が最大限に発揮されることから、一日も早い開通に向けて整備を加速すること。
- (2) 名豊道路は、完成自動車の国際ハブ港である三河港と輸送機器等の生産拠点を結ぶ本県の重要な東西軸であることから、早期全線開通と4車線化に向けて整備を加速すること。
- (3) 西知多道路は、国際拠点空港である中部国際空港と高速自動車国道とを直結する道路であることから、国が責任を持つべき道路として、未事業化区間の早期事業化を図るとともに、事業中区間の早期整備を推進すること。
- (4) 三遠南信自動車道は、県境を越えた広域連携の軸となって広域幹線道路ネットワークを形成することから、早期整備を図ること。また、浜松三ヶ日・豊橋道路は、三遠南信自動車道と一体となって広域幹線道路ネットワークの効果をさらに高める重要な道路であることから、計画の早期実現に向け、直轄調査を加速すること。
- (5) 名岐道路は、リニア・インパクトを広く中京圏全域に波及させるとともに、名古屋と岐阜との間の交流・連携強化に資する重要な道路であることから、計画の早期実現に向け、直轄調査を加速すること。また、国道41号名濃バイパス、名古屋環状2号線の一般部である国道302号など、名古屋都市圏における道路ネットワークの早期整備を推進すること。
- (6) 広域幹線道路と一体となって、地方が幹線道路整備を進めるために、国庫補助金や社会資本整備総合交付金について所要額を確保するとともに、補助事業による支援対象を拡充すること。
- (7) 高速道路ネットワークを賢く使うとともに、必要なネットワーク整備のスピードアップに向けた財源確保のため、利用者のニーズも踏まえて、早期に中京圏の高速道路料金の見直しを進めること。
- (8) 安定的な輸送と物流生産性の向上を実現する「重要物流道路」は、製造業の盛んな本県にとって重要な役割を果たすことから、同道路を早期に指定し重点的に整備を推進するとともに、適切な財政支援等の措置を講じること。
- (9) 新東名高速道路・新名神高速道路は、我が国の社会経済活動の根幹を担う新たな大動脈であり、ダブルネットワーク機能の強化及び物流の効率化に資する未開通区間の整備や暫定4車線区間の6車線化を推進すること。

(背景)

- 製造品出荷額等が40年連続日本一である本県にとって、県内の生産拠点から交通拠点を結ぶ広域幹線道路に依然として残る未開通区間の解消は大きな課題であることから、早期開通に向けて整備を加速し、物流の速達化、効率化を図ることにより、本県における生産性革命を実現する。
- 名古屋環状2号線の西南部・南部は、当該路線において唯一残された未開通区間であり、当区間の整備により、名古屋都市圏の環状道路が完成し、ネットワーク効果が飛躍的に高まる。現在、国と中日本高速道路(株)において2020年度開通を目指し工事が進められているところであり、一日も早くストック効果の発揮を図るため整備を加速する必要がある。
- 名豊道路は、国道1号のバイパス機能を有し、三河港等の重要港湾と西三河南部の輸送関連機器等の主要生産拠点を結ぶ重要な東西軸であり、既に計画区間の約9割が開通している。残る蒲郡バイパス東部区間は、国により鋭意事業が進められているものの開通時期が示されず、唯一の未開通区間となっている。全線が繋がることにより、本路線の重要な役割である東西軸としての機能が更に発揮されるため、一日も早い完成を図り、併せて交通混雑区間の4車線化整備を加速する必要がある。
- 西知多道路は、国際拠点空港である中部国際空港と高速自動車国道の新東名高速道路を直結するとともに2027年度開業予定であるリニア中央新幹線の名古屋駅とも名古屋高速道路を経由してつながる重要な路線である。本県としても事業中区間の早期整備に向けて鋭意取り組んでいるところであるが、重要な空港・港湾と高速自動車国道とのネットワークを形成する路線については、国により整備・管理すべきと考えており、未事業化区間について国による早期事業化を図る必要がある。
- 三遠南信自動車道は、東三河地域、遠州地域及び南信州地域を連絡し、地方創生に資する広範な交流ネットワークを形成する重要な南北軸である。国により鋭意事業が進められており、平成30年度に開通する予定である佐久間IC(仮)～東栄IC(仮)間に続き、県内区間の全線開通に向けて、整備を加速する必要がある。
- 浜松三ヶ日・豊橋道路は、三遠南信自動車道、新東名・東名高速道路と名豊道路を有機的に結び、ネットワーク効果をさらに高める重要な道路であるため、国が行っている直轄調査を加速し、計画の具体化を図る必要がある。
- 名岐道路は、リニア中央新幹線のインパクトを広範囲に波及させるなど、都市・地域間の交流・連携の強化につながる重要な路線であるため、早期実現に向けて、国が行っている直轄調査を加速し、計画の具体化を図る必要がある。
- 広域幹線道路を補完する国道41号名濃バイパスの6車線化、国道153号豊田北バイパス、国道155号豊田南バイパス、名古屋環状2号線の一般部である国道302号の全線4車線化等は、都市・地域間の交流・連携や、交通の分散導入を促進する役割を担うため、早期整備を図る必要がある。
- 広域幹線道路とモノづくりの生産拠点などを結ぶ物流ネットワークの強化は極めて重要であるため、この役割を担う県管理の幹線道路整備について、計画的かつ着実に実施できるよう安定的に予算を確保するとともに、補助事業による支援対象を拡充する必要がある。
- 当地域では、高速道路網の未整備区間や慢性的な渋滞箇所が存在により、ネットワーク効果が十分に発揮されていないことに加え、異なる道路管理者が一体のネットワークを構成しながら、それぞれ別の料金体系により運営するなど、高速道路料金が利用者にとって分かりにくくなっていることから、これらの課題を解消するため、当地域の実情に沿った料金体系を早期に導入する必要がある。
- 重要物流道路は、本県の活発な生産活動を支える物流に重要な役割を果たす一方で、国際海上コンテナ車等の円滑な通行のために、通常よりも高水準の構造基準が設定されることから、機能強化を着実に実施するための予算を確保する必要がある。
- 新東名高速道路・新名神高速道路の整備促進・機能強化は、三大都市圏を連結するダブルネットワーク機能の拡充及び後続無人隊列走行等の実現を含め物流の効率化、生産性の向上に繋がることから、ミッシングリンクを解消するとともに、暫定4車線区間の6車線化等を進める必要がある。